



保坂展人 世田谷区長と谷山理事長

イタル成城 施設長 蓮田 正信



四半世紀に渡るいたる経験を活かします

桜 花爛漫の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて本日4月1日より、障害者複合施設「イタル成城」がオープンいたしました。当施設は、生活介護と短期入所、共同生活援助の3つの障害福祉サービス事業を一つの建物内で行う複合施設です。

イタル成城では、「どんな障害であっても地域で自立して生活できるように、一人ひとりの命を大切にしたい」という人権尊重の精神に基づいた利用者支援を行うこと」を使命とし、

①一人ひとりの幸せの追求、②安全・安心の確保、③療育の発展へ、④地域とのつながり、⑤

あけぼの作業所 施設長 荒川 善夫

アートや音楽の先進的活動、の5つを重点目標としました。障害者の高齢化や重度化は、いま大きな社会的課題となっています。ご利用者様がいきいきとした地域生活を送るためには、それぞれの障害を「個性」として捉え、お一人お一人の「個性」に合ったサービス提供が不可欠です。

働きがいを求める方にはやりがいのある仕事を、ケアを望まれる方には必要なケアを提供することにより、ご利用者様の社会参加と自己実現を積極的に支援してまいります。

社会福祉法人いたるセンターに入職して24年、東京都様および世田谷区様をはじめ、地域の皆様、業界の皆様より大きな注目を浴びている当施設の施設長の任を拝命いたしました。これまでの経験を活かし、職員の皆さんとともに重責を果たしていきたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

施設長就任のご挨拶

この度、あけぼの作業所の施設長を拝命いただきました。荒川善夫と申します。

福祉の経験は特別養護老人ホームに5年、民間企業で介護付き有料老人ホームを10年の経験しかありません。今回の経験は初めまして、阿佐谷福祉センターになります。阿佐谷福祉センターの方々に面し、改めて責任の重さを感じているところであります。

高齢者に対するサービスは如何に老後の安寧を提供できるかというところが主たる使命でありましたが、いたるセンターのご利用者様は若い年齢層の方々も多く、将来の生活に對して我々が果たす役割は重大であり、責任もあつて感じております。

一日も早くご利用者様と過ごす事に慣れ、私を支えてくれるスタッフと力を合わせ、あけぼの作業所の充実といったセンターの発展に寄与する

法人本部より



支援をつなぐ、地域をつなぐ。イタル成城をよろしくお願いいたします。

平成27年3月19日、イタル成城の開所式が行われました。保坂展人世田谷区長をはじめ、施設整備にあたり多大なるご協力とご支援をいただいた地域の皆様および関係行政の皆様をお招きいたしました。

今後とも、ご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

いたる広報委員

発行責任者＝谷山 哲浩

社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/平成27年4月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。

いたる通信 56 春号

ITARU CENTER

目次 contents

- 01 いたるセンター
- 02 阿佐谷福祉工房
目黒本町福祉工房
いたる相談室
すまいる高井戸
- 03 いたる地域ケアセンター
クローバーマルコ
PukuPuku
さんまるしえ
- 04 イタル成城
あけぼの作業所
法人本部

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1,050円(何口でも可)

郵便振込み 00110712892

口座 339217346 事務局 山本まで

平成27年度・事業方針について

キーワードは、つなぐ、つながる、つながる。

社会福祉法人いたるセンター

桜の便りが次々に聞かれるこの折、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

春日頃は多大なるご支援をいただき、誠に有難うございます。

新たな年度を迎えるとともに、この4月1日には、障害者複合施設「イタル成城」がオープンいたしました。当施設の開設にともない、さらなる介護支援における安全・安心と安定した運営を図るため、「現場第一主義」を徹底します。その第一段階として、事業部独立型の組織運営から、多機能サービスの提供を行う「イタル成城」をモデルとした一体化運営を目指します。これは、生活介護(通所施設)、短期入所(ショートステイ・みつばち)、共同生活援助(グループホーム・バンブル)の三事業の業務にすべての職

理事長 谷山 哲浩

（たにやま てつひろ）

員が関わることにより、複数の事業内容と業務を理解することを目的とします。

横断的なコミュニケーションを図ることでセクシヨナリズムを排除するとともに、職員のスキルの上と同レベル化により、どの事業の業務でも担える人材を育成します。

この一体化運営のフレームを「阿佐谷福祉工房」に置き換えてみると、生活介護・就業継続支援B型(通所施設)、短期入所(クローバー)、日帰りショートステイ(マルコ)、相談事業(いたる相談室)、これに加えて、新たに準備している荻窪北マンションの「クリーニング事業」、さらに三井不動産リアルティ株式会社とのソーシャルオフィス事業(チャリパ清掃業務)まで、事業の枠を超えた有機的・複合的な運営形式が見えてきます。

また、「食」の一体化というテーマで考えれば、就業継続支援A型(パン工房アプク)、イトインショップ(にぎやかな風)、福祉ショップ(さんまるしえ)、あけぼの作業所・就業継続支援B型(キッチンカー)が相互連携すれば、これまでにない新しい展開により、職員のスキルアップはもちろん、ご利用者様への幅広い生産活動の提供や工賃アップにもつながります。

一体化運営によって各事業部をつなぎ、事業の枠を超えて職員とご利用者様がつながることにより、支援の現場における総合力をパワーアップし、これまでの「いたるセンター」から進化させると同時に、「いたる維新」の実現を目指してまいります。

組織体制を抜本的に見直し、介護支援・就業支援の安定と充実を図るいたるセンターに、今後とも変わらぬご支援ご助力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。

阿佐谷福祉工房

今後の営業戦略と人材育成

施設長 佐藤 章 (さとう あきら)

今年度の施設長指針は、「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」としました。どれだけ城を堅固にしても、人の心が離れてしまったら世を治めることはできない。情けは人をつなぎとめ、結果として国を栄えさせるが、仇を増やせば国は滅びるという武田信玄の言葉です。

この言葉を肝に銘じ、昨年度作成した業務標準マニュアルの見直し、ISO9001の活用で常に改善を繰り返すことや法人マイスター制度により、安全・安心・安定した継続的なご利用者の支援充実をおよびスタッフの人財育成を図ってまいります。

また、区内の地域イベントには、スタッフ、ご利用者様はじめご家族等も積極的に参加していただきます。さらに、

さまざまな協賛等を行うことで、地域の皆様とのより良い関係を築き発展させていきます。

今後とも阿佐谷福祉工房をよろしく願っています。



清掃マイスター研修を受講する佐藤施設長

目黒本町福祉工房

指定管理4年目を迎えて

施設長 阿久津 庄司 (あくつ しょうじ)

平成24年4月に運営を目黒区から任せられ、早や4年目を迎えました。当工房は、総勢約40名弱というスタッフを有している一方、6階建ての多層階構造や従来から区内にあった歴史ある2施設の合併による設立という経緯もあり、単独施設の運営とはやや趣を異にするという実感があります。

このスタッフのマンパワーを余す所なく、ご利用者様が望むサービスを提供することが我々の使命であると認識しています。

先日、あるご利用者様のご要望で、谷山理事長との面談が実現しました。今後、よりご利用者様の声(思い)に耳を傾け、「自己決定」を尊重できる組織を目指していきます。

法人として、そして事業所として、ご利用者様、ご家族、施設が共に未来に向かって歩

むという強い気持ちをもって4年目のスタートを切ります。

また、スマイルプラザ中央町で分室が4月から開設します。お客様に愛されるシヨクラやジャムの商品をお届けできるように頑張ります。



溶かしたチョコにナッツやドライフルーツをトッピングした菓子「マンディアン」です

いたる相談室

室長 渡邊 紀子 (わたなべ のりこ)

相談業務における各事業部との連携

期入所はどんな時に使うの?という相談や質問をよく受けます。杉並区では基本、月4日、日帰りシヨートステイは月3日、支給されません。平成27年2月より、日帰りシヨートステイをご利用の方には、受給者証(白色)が発行されるようになりました。小さなお子さんのケースでは、ご家族の不在で、お留守番が難しい時のご利用が多いようです。

いたる相談室は、クローバー(短期入所)と同じ建物内にありますので、計画相談でお越しいただいた時に親子でご案内し、実際に部屋を見てもらったり、職員と顔を合わせてもらったりすることで、ご利用時の感触を事前に確かめていただいています。その際のご本人の様子から利用をイメージして、初回は日帰りシヨートステイから始める方もおられます。

すまいる高井戸

センター長 春山 陽子 (はるやま ようこ)

ネットワーキング構築へ必要なサービスへ

すまいる高井戸は今年4月で3年目を迎えました。

2月の利用件数は550件となり、職員・スタッフも一丸となり、チーム力で相談支援を行っています。

特に、必要なサービスに結びついていない方やサービスの利用や就労が難しくなった場合、一人で悩まず利用してもらいたいと考えます。

27年度4月より、特定相談支援事業所や杉並区地域ネットワーク推進係、すまいるの相談機能がさらに求められるため、必要なネットワークの構築に努力いたします。



支援の輪が広がる、オープンスペースの活用

いたる地域ケアセンター

サポートウイズとグループホーム部の連携

センター長 八巻 利子 (やまき としこ)



新ワルツの地鎮祭の様子

グループホーム「旧ワルツ」が永住型のグループホーム「新ワルツ(仮名)」としてスタートするための地鎮祭がおこなわれました。いたるセンターで初めて50年契約、鉄筋3階建て、13名の方が入居できる建物になります。

同建物内には訪問看護ステーション等も常設され、平成27年末には完成予定です。ここでいいたる地域ケアセンターの職員・支援員・登録ヘルパーさん達の協力が欠かせないものになります。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

サポートウイズとグループホームが地域ケアセンターとして一体化してから1年半が過ぎました。現在、サポートウイズの職員、登録ヘルパーさんがグループホームの宿直に入ったり、日中支援に入ったりしております。また、グループホーム職員・支援員さんはサポートウイズに人員不足が生じた際、応援を依頼しております。特に地域ケアセンターの職員に関してはグループホームやサポートウイズの利用者様の通院介助を行い医療機関との連携に努めています。平成27年3月13日には上荻二丁目にありましたグ



新ワルツの地権者および建設会社の方と

クローバー・マルコ

マネージャー 影山 仁美 (かげやま ひとみ)

日帰りシヨートステイ受け入れ年齢を引き下げました

差しも暖かくなり、梅の香りのする季節となりました。クローバー・マルコでは今年の春より区の委託事業である日帰りシヨートステイに関して、ご利用者様の受け入れ可能な年齢を引き下げました。以前は受け入れ年齢の下限を5歳からとしていましたが、実際はその年齢よりも低い年齢の児童をお持ちの保護者の方や通所施設より要望が多数寄せられていたこともあり、3歳の児童から受け入れることが出来るような環境を整えました。年度も替わり、気持ちも新たにクローバーをスタートします。

伸び盛りのお子様たちとの新たな出会いと楽しい時間を共に過ごせることを、職員一同お待ちしております。

※受け入れには事前の面接と契約が必要になります。お気軽にご連絡ください。

パン工房PukPuku

統括リーダー 池田 史暢 (いけだ あやのぶ)

はじめてのご利用様研修



PukuPuku 初の研修に、皆さん大感激

メッセに行きました。当日は好天にも恵まれ、かつ、初めての団体行動も手伝ってか朝から気分は高揚していました。到着するやいなや展示場の広さに圧倒されていました。その後、最新のパン製造の大型機械や色とりどりの包材、食材の試食など、見るモノ・触れるモノにご利用者の皆様はととても感動されており、大変有意義な一日となりました。

福祉シヨップ さんまるしえ

マネージャー 鈴木 健 (すずき たけし)

施設の個性をつなぐ春のフェア

さんまるしえでは目黒区内の14の施設の商品を取り扱っています。主力である弁当やパン以外の商品を取り扱う施設にも均等にスポットをあてるため、毎月施設別のフェアを開催しています。

一方で「バレンタイン」、「はる・いろ・ぎっか」フェア等シーズン対応のフェアを店主権で開催していますが、さんまるしえでは季節をキーワードに各施設から雑貨、お菓子等、様々な商品を集め各施設の個性をつなぐフェアを実施しています。



多彩に商品セットをコーディネートします